

め、軽症症例でも PNH 血球が見られるなど免疫病態の関与を疑わせる所見がある場合は、シクロスポリンの短期投与を行って良いのではないかと考えています。

小澤班長： その場合、蛋白同化ホルモンの扱いはどのようになりますか？

中尾先生： 同化ホルモンでも良いと思います。

小澤班長： 移植については、移植学会の指針との整合性を考えてまとめて下さい。なお、白血球減少の基準としては、国際基準も考慮して好中球 1500 で統一してみたいかがですか。重症度分類も国際的なスタンダードに合わせていくのが良いですね。

小島先生、中尾先生： 欧米では stage 1 と 2 は再生不良性貧血と定義していないのがややこしいところです。

小澤班長： その点については、日本と欧米基準の差について説明をつける方向で如何でしょうか。

小島先生： ATG の国際試験については、あとは日本の準備を待つだけの状況です。

小澤班長： DPC 問題はどうなりましたか。

中尾先生： 厚労省に申し入れをしていますが、結果はまだです。

●先天性骨髄不全症候群(小島先生)

これまでファンコニ貧血についての診療ガイドはあったが、今回先天性骨髄不全症についての研究班がいくつか立ち上がったので、これらの疾患について診療参照ガイドを作成した。先天性好中球減少症についての研究班も今年発足したが、症例が少なすぎてエビデンスが少なすぎるのが問題になっている。

中央診断システムを立ち上げ、既に行った一次調査で、いくつかの追加症例を新たに把握できた。これまでに判明した問題点を改善しながら、systematic に症例集積を行い、診断法の確立を行いたい。

●赤芽球癆(澤田先生)

診断の参照ガイド改訂では、参考論文の紹介を充実させ、続発性 PRCA に関する記載を充実させた。重症度分類は今回もそのまま残したいと考えている。ただ、病期分類の扱いは問題で、個人的には不要と考えている。

小澤班長： 実際の臨床の場ではほとんど使われていないようなので、外しても良いと思います。治療方針については是非まとめて欲しいと思います。

●不応性貧血領域(黒川先生)

今回の改訂では、診断基準・疾患分類に WHO 分類第 4 版を取り入れ、病因・病態・疫学についての知見を更新した。また形態学診断基準 WG の成果を反映し、治療適応については、リスク層別化を 2 層に簡略化した。また新薬の情報を追加した。

小澤班長： 疾患分類については FAB と WHO 併存表記が良いと思います。重症度分類は現在ほとんど使われていないので、参考資料の扱いで良いと思います。旧版のリスク分類は複雑であり、国際的な整合性も取る必要があるため今回は簡略化が良いと思います。これも同様に参考資料として掲載するのが良いと思います。

宮崎先生： IPSS 改訂作業はデータが fix されたところです。今年の ASH で結果が揃うかどうかのところだと思います。

診療参照ガイドの改訂作業において、治療のフローチャートを載せたいと思っていましたが、新薬認可の時期の問題で今回は pending になっています。

小川先生： CMMoL についてはどこで議論したらいいのでしょうか？

小澤班長： 従来 FAB がカバーしていた疾患については、MDS のどこかに入れられ

ませんか？

黒川先生： CMMoL については記載を厚くしたいと思います。

●MDS 重点研究班(小川先生)

MDS 重点研究班では個別の基礎研究を進めるとともに、これまで三谷先生が力を入れてこられた検体集積事業を大切にしていきたい。

○追加発現(三谷先生)

検体集積事業プロトコルを Ver.4 に修正した。Ver.3 は今年 3 月に検体集積を終了しているため、今後は Ver.4 について獨協医大・京都大学・東京大学で倫理委員会を通し、新たな検体集積事業を進めていきたいと考えている。

小澤班長： 国の重点事業との関連はどのようになっていますか？

小川先生： まだ予算面で不十分であり、動いていない状況です。

●溶血性貧血領域 (PNH) (金倉先生)

診療参照ガイド改訂では、今回病型を古典的 PNH と骨髄不全型 PNH の二つに分けた。そして、重症度分類はこれら2つそれぞれについて簡略化したものを準備した。治療についてはステロイドとエクリズマブが最も重要な改訂ポイントであり、エクリズマブについては使用指針を一応記載した。

その他研究関係では、PNH 研究会の発足、PNH クローンの拡大機序の研究、エクリズマブ不応症例の解析などを進めていきたい。

小澤班長： 重症度は 3 段階が妥当でしょうか。

金倉先生： そう思います。

小澤班長： エクリズマブ使用基準と重症度を結びつけられないでしょうか？

西村先生： 古典的 PNH では重症型はエクリズマブの適応と考えられます。

小澤班長： 世界的ガイドラインの動きはありませんか？

金倉先生： ないですね。

小澤班長： 薬価はどのくらいになりますか？

金倉先生： 年間約 4000 万円です。

●溶血性貧血領域 (AIHA) (亀崎先生)

現在研究活動では赤血球結合 IgG 測定データを蓄積している。

参照ガイド改訂については、大きな変更点はないが、問い合わせの多かった点について記載を追加した。クームス陰性 AIHA の診断、AIHA の診断フローチャート、冷式 AIHA の検査法、寒冷凝集素症の検査・診断について、輸血関連について、抗体療法についての記載を追加した。

●原発性骨髄線維症領域(赤司先生)

診療ガイド改訂について、まず PMF の診断基準については国際的整合性を取る意味からも、WHO の診断基準を採用して良いのではないかと考えている。ただ、大項目 1 にある、prefibrotic phase については従来 ET と考えられていたものが多数ここに入る可能性があるため、検討が必要である。

重症度分類については、あまり意味がないようなので巻末に移行して参照資料としたい。またリスク分類については、日本人によく当てはまるものを記載した。予後判定は幹細胞移植の適応を決めるのとても重要と思われる。

治療方針アルゴリズムについては是非改訂を行いたいが、まだ未承認の薬剤が多すぎるため、今回は見送って、本文中の記載を強化した。

小澤班長： 診断基準は WHO だけでいいですか。

赤司先生：それで良いと思いますが。

小澤班長：欧米と日本の診断状況はどうですか？

赤司先生：先ほど述べたように欧米ではかなり ET が紛れてきていると思います。ETとMFの線引きをどうするかが問題です。

小澤班長：これについては国際状況についての説明があった方が良いと思います。治療については確かに現段階ではこの程度に止めざるを得ませんね。

●小児科領域(中畑先生)

小児科領域では先ほど小島先生が発表された参照ガイドの改訂作業を行い、これまで行ってきたシステム作りをさらに進めていきたいと考えています。ガイドはどのような形で配布する予定ですか？

小澤班長：各領域全てまとめて一括して配布する予定です。

●造血幹細胞移植領域(岡本先生)

MDSの移植適応に関する検討を進めていきたいが、造血幹細胞移植学会の指針とも整合性を取りながらまとめていきたい。既にアンケートを配布して回収しており、現在内容を解析しているところである。最近 RIST と full 移植については年齢条件を緩和する動きがあるようだ。

メチル化阻害剤は今後移植のやり方を大きく変えていくものと思われる。今後も調査を続けていきたい。

●骨髄不全症全般(小澤班長、鈴木)

現在鉄過剰症臨床研究を進めている。参加施設は順調に増えているが、まだ症例登録が遅れている。是非該当症例があれば登録していただきたい。

<終わりに>

事務局鈴木からの事務連絡の後、班員会議は閉会した。

特発性造血障害に関する調査研究班(平成20-22年度)
班長(主任研究者): 小澤 敬也 kozawa@ms2.jichi.ac.jp
事務局: 自治医科大学内科学講座血液学部門
鈴木 隆浩 tasuzuki@jichi.ac.jp
(経理事務担当) 吉田 元子 motokoy@jichi.ac.jp
連絡先: TEL 0285-58-7353
FAX 0285-44-5258

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
特発性造血障害に関する調査研究班

および

重点研究：不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究

平成 22 年度 第 2 回合同班員会議 議事録

日時：平成 23 年 2 月 3 日（木）18:00～19:30

場所：アステラス製薬本社 313 会議室

〒103-8411 東京都中央区日本橋本町 2-3-11

《参加者》

小澤、小川、三谷、赤司、下田、岡本、金倉、西村、黒川、澤田、高折、石川、中尾、中畑
宮崎、村手、杉田、鈴木

＜報告事項＞

小澤班長からの開会の挨拶に引き続き、先日逝去された当研究班元班長 前川 正先生の御功績を偲び、黙祷を行った。

その後、小澤班長より配付資料を用いて本年度および本研究事業 3 年間の事業報告が行われた。特に、今回の班会議総会では終了後に、3 年間のまとめとして海外より造血障害に造詣の深い二人の演者を招聘して国際セミナーを開催すること、また、「診療の参照ガイド」について平成 16 年度以来の大改訂を行う旨改めて説明があり、刊行・出版等その準備状況が報告された。

＜審議事項＞

「診療の参照ガイド」改定の最終確認

●再生不良性貧血(中尾先生)

今回の改定では、再生不良性貧血の診断基準を国際的基準に近づけるよう修正を行った。これまで診断基準に含まれていた末梢血「pancytopenia」を「bicytopenia 以上」に変更し、血球減少の基準値を血小板以外国際基準に合わせた。また、造血幹細胞移植の項にフルダラビンについての記載を追加した。

小澤班長：1 週間以内に最終バージョンを確定したいと思います。これまでの重症度「基準」については、今回の改訂では重症度「分類」に統一したいと思います。

●先天性骨髄不全症候群(中畑先生)

今回は新たに対象疾患を増やしてガイドを作成した。現在のバージョンで最終にしたいと思います。

●赤芽球癆(澤田先生)

胸腺腫および LGL 関連 PRCA の治療法について記載を追加した。また、維持療法についても記載を加えている。

●不応性貧血(MDS)(黒川先生)

今回は WHO 第 4 版を取り入れた診断基準・疾患分類を行った。また、病因・病態・疫学、新薬についての新たな知見を組み込み、当班で作成した形態学診断基準の内容を掲載し

た。治療適応については、これまでのリスク層別化が複雑すぎたため、今回の改定では 2 層に簡略化した。

●発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH) (金倉先生)

今回の改定では、ソリリスの発売を受け治療を中心に大幅に内容を書き換えている。診断基準を一部変更し、また重症度基準は古典的 PNH と骨髄不全型 PNH で分けて記載した。治療方針も、溶血・骨髄不全・血栓症の 3 つの主徴に分けて示すこととし、エクリズマブ使用のための指針を掲載した。また、妊娠時についてもコメントを追加した。

●自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) (鈴木)

前回と大きな変更点はないが、病態、治療について最近の知見を適宜追加した。

●骨髄線維症 (赤司先生)

今回の改訂では診断基準に変更を加えており、WHO 第 4 版に沿った診断基準に変更した。また、全国調査の結果から判明した国内症例の予後予測システムを記載し、これまでの重症度基準は付表に移した。

「MDS 重点研究班」より (小川先生)

当班では、これまで継続してきた検体集積事業を続けていきたい。できるだけ多くの施設から検体を集めたいと考えているが、先日行った事前アンケートでは集積事業に参加していただけない症例が少ないのが気になっている。

また、前回の班会議後より JALSG との合同研究の準備を進めており、High risk 症例を対象とした、JALSG azacitidine 研究で検体集積を同時に行う計画になっている。Low risk 症例については従来通りのチャンネルで集積を続けたいと考えている。また、最近班のホームページを作ったので、是非御覧いただきたい。

赤司先生:

大学で新患として診療する MDS 患者は少ない。MDS 患者は関連病院で診察することが多く、新患という条件だと登録できる症例はとて少ないと思います。

小川先生:

登録は新患患者だけでなく、継続診療中の患者でも大丈夫です。

<3 年間を振り返って: 自由討論>

●再生不良性貧血領域 (中尾先生)

微少 PNH 血球の診断的意義について前向き研究を続けてきたが、免疫抑制療法の反応性と PNH 血球の存在には相関を認めなかった。ただ、MDS では免疫抑制療法への反応性を予測する因子として使える可能性は残っている。

また、成人再生不良性貧血に対するサイモグロブリンの至適投与量決定研究の準備を進めている。サイモグロブリンは投与後の EB 関連合併症が問題になっており、どの程度の投与量が最も良いのか早く研究を進めていきたい。

杉田先生:

今回の研究期間では臨床調査個人票の改訂作業を主に行ってきた。既に改訂案を厚生労働省には提出しているが、厚労省側で作業が遅れている状態である。

●赤芽球癆 (澤田先生)

臨床調査の結果を元にして、治療におけるシクロスポリン (CyA) の位置づけを明らかにすることができた。

また、ABO 型不適合移植後 PRCA については、治療干渉を行わない方が予後がよいという結果が得られ、これは以外な結果であった。

●不応性貧血領域(黒川先生)

これまで前方視的登録事業と合わせて、鏡検のセントラルレビューを進めてきたが、参加は一部の先生に限られ、その成果は一部の先生方の御努力に依るところが大きい。今後は鏡検診断技術を是非若手の先生に伝えていき、診断技術の向上と標準化を推進していきたい。

○追加発言(高折先生)

今年度より前方視登録については登録が行いやすいように記入様式を変更した。現在最大の問題は、どのようにして症例および参加施設を増やしていくかという点であり、またデータベースの利用方法も考えていく必要がある。

○追加発現(宮崎先生)

IPSS の改訂作業に参加してきた。現在作業はやや遅れ気味で、染色体異常についてのグループ素案が出たところである。

○追加発現(村手先生)

3年間の研究期間で、造血器腫瘍についての個別研究を進めることができた。

●溶血性貧血領域(PNH)(金倉先生)

研究班と連携する形で Eculizumab の治験を進め、終了することができた。また I-PIG やアジア PNH registry の立ち上げに参加してきた。今後もこれらの国際組織と協力していくとともに、個別研究を進めていきたい。

○追加発現(西村先生)

現在PNH血球の測定を請け負う、フローサイトネットワークの立ち上げ作業が進んでいる。春頃には測定システムが立ち上がり、参加施設に倫理委員会申請をお願いできるのではないかと考えている。

●骨髄線維症領域(赤司先生)

本研究期間に全国調査を継続した。途中経過についての報告があまり集まっていないので、今後は精力的に回収したい。近い将来行われるポマリドマイドの治験が楽しみです。

●造血幹細胞移植領域(岡本先生)

MDSの移植についてJSHCTのデータ解析やフェリチン値の移植への影響について検討を行った。JSHCTのガイドラインについても調査したが、多くの施設でガイドラインにおおよそ沿った形で治療を行っていることが分かった。

●小児科領域(中畑先生)

小児科領域では疾患登録事業が進んでいる。施設の参加率は90%と極めて高い。昨年様々な先天性骨髄不全についての難病研究班が立ち上がり研究を開始した。

<終わりに>

事務局鈴木からの事務連絡の後、班員会議は閉会した。

特発性造血障害に関する調査研究班(平成20-22年度)
班長(研究代表者): 小澤 敬也 kozawa@ms2.jichi.ac.jp
事務局: 自治医科大学内科学講座血液学部門
鈴木 隆浩 tasuzuki@jichi.ac.jp
(経理事務担当) 吉田 元子 motokoy@jichi.ac.jp
連絡先: TEL 0285-58-7353
FAX 0285-44-5258

資料 3. 班会議総会プログラム

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

特発性造血障害に関する調査研究

(研究代表者 小澤敬也)

および

重点研究

不応性貧血の治癒率向上を目指した

分子・免疫病態研究

(研究代表者 小川誠司)

平成 22 年度 第 1 回合同班会議総会

平成 22 年 7 月 30 日(金) 13:00~18:00

アステラス製薬本社 2 階ホール

(東京都中央区日本橋本町 2-3-1 1)

※御食事をお申し込みの方には、12:00 より会場にて御提供致します。

平成 22 年 7 月 30 日(金) アステラス製薬本社 313 会議室

9:30~12:00

平成 22 年度 第 1 回合同班員会議

12:00~12:50

平成 22 年度 第 1 回重点班班員会議

(それぞれ別途御案内の先生方には、御出席をお願い致します。)

事務局

《特発性造血障害に関する調査研究班》

自治医科大学 内科学講座血液学部門

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL: 0285-58-7353 / FAX: 0285-44-5258

URL: <http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan>

E-mail: kozawa@ms2.jichi.ac.jp (小澤敬也)

tasuzuki@jichi.ac.jp (鈴木隆浩)

motokoy@jichi.ac.jp (吉田元子)

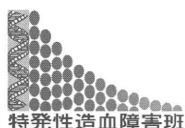
《重点研究：不応性貧血の治癒率向上を目指した分子・免疫病態研究》

東京大学医学部附属病院 がんゲノミクスプロジェクト

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL: 03-5800-9045 / FAX: 03-5800-9047

E-mail: sogawa-tky@umin.ac.jp (小川誠司)



特発性造血障害班

御発表に際して

- (1) CD、あるいはUSBメモリによるデータを受付に御提出下さい。
- (2) 配布資料は、表紙右肩に□で囲んだ演題番号を記したものを、130部御用意下さい。
- (3) 割り当て時間は発表と討論を含みますので、討論の時間を残すようにコンパクトに御発表下さい

会場の御案内



アステラス製薬株式会社本社

東京都中央区日本橋本町2-3-1 1

東京メトロ三越前駅

A7出口から3～4分（銀座線ホーム寄り）

※A6出口は閉鎖中。

半蔵門線を御利用の方は、上記出口を御利用下さい。

東京メトロ小伝馬町駅3番出口から10分

JR神田駅東口出口から15分

JR新日本橋駅3番出口から10分

※駐車場はございませんので、お車での御来場は御遠慮下さい。

次回班会議予定

- 合同班員会議 : 平成23年2月3日(木) 夜
合同班会議総会 : 平成23年2月4日(金) 午前・午後
国際セミナー : 平成23年2月4日(金) 夕方(終了後、懇親会)

造血障害班ホームページ

当研究班では、皆様への情報の御提供のため、ホームページを開設しております。
どうぞ御利用下さい。

URL	http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan/
ID	zoketsu
Password	jichi

プログラム

開会の挨拶 小澤敬也 (5分) (13:00-13:05)

厚生労働省 挨拶 健康局疾病対策課 (5分) (13:05-13:10)

1 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告 (10分) (13:10-13:20)
自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也

『診療の参照ガイド』改訂について 座長 小澤敬也

2 再生不良性貧血 (15分) (13:20-13:35)
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 中尾眞二

3 先天性骨髄不全症候群 (15分) (13:35-13:50)
名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学 小島勢二

4 赤芽球癆 (10分) (13:50-14:00)
秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科学 澤田賢一

5 不応性貧血（骨髄異形成症候群） (20分) (14:00-14:20)
東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 黒川峰夫

6 発作性夜間ヘモグロビン尿症 (15分) (14:20-14:35)
大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉 譲

7 自己免疫性溶血性貧血 (10分) (14:35-14:45)
自治医科大学 地域医療学センター 梶井英治、○亀崎豊実

8 骨髄線維症 (15分) (14:45-15:00)
九州大学 病態修復内科 赤司浩一



15:00~15:15

coffee break



再生不良性貧血領域

座長 中尾眞二

9 研究の進捗状況と今年度の計画について (10分) (15:15-15:25)
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 中尾眞二

10 ABO 不適合同種造血幹細胞移植後赤芽球癆に対する標準的治療の確立を目的とした調査研究：進捗状況 (5分) (15:25-15:30)

秋田大学血液・腎臓・膠原病内科学
京都大学人間健康科学小児科
北海道大学血液内科
N T T 関東病院血液内科
慶応大学血液内科
名古屋大学造血細胞移植情報管理学
岡山大学血液・腫瘍・呼吸器内科
金沢大学細胞移植学
自治医科大学 血液科

澤田賢一、○廣川 誠、藤島直仁
足立壮一
今村雅寛
浦部晶夫
岡本真一郎
鈴木律朗
谷本光音
中尾眞二
小澤敬也

- 11 研究の進捗状況と今年度の計画について (5分) (15:30-15:35)
 東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 黒川峰夫
- 12 再生不良性貧血と骨髄異形成症候群の前方視的症例登録 (5分) (15:35-15:40)
 京都大学 血液腫瘍内科 ○石川隆之
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃
 川崎医科 大学検査診断学 通山 薫
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也
- 13 国際 MDS 予後因子解析プロジェクト (IPSS revision) への参加報告 (5分) (15:40-15:45)
 長崎大学原研内科 宮崎泰司、○波多智子
 長崎原爆病院 朝長万左男
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃
 川崎医科大学 検査診断学 通山 薫
 東京大学 血液・腫瘍内科 黒川峰夫
 自治医科大学 血液科 小澤敬也
- 14 骨髄像検査における ANC の解釈、および細胞比率算定方法標準化の提案 (5分) (15:45-15:50)
 川崎医科大学 検査診断学 ○通山 薫
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃
 長崎大学 原医研内科 宮崎泰司
 京都大学 血液腫瘍内科 石川隆之
 東京大学 血液腫瘍内科 黒川峰夫
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 鈴木隆浩、小澤敬也
- 15 【連携班：「遺伝性鉄芽球性貧血の診断分類と治療法の確立」】
 遺伝性鉄芽球性貧血の診断分類と治療法の確立 (10分) (15:50-16:00)
 東北大学大学院医学系研究科血液・免疫病学分野 張替秀郎、○大場理恵

重点研究「不応性貧血の治療率向上を目指した分子・免疫病態研究」班 座長 小川誠司

- 16 班長報告 (10分) (16:00-16:10)
 東京大学医学部附属病院 ゲンゲノミクスプロジェクト 小川誠司
- 17 MDS・AML におけるコホート研究と遺伝子変異 (5分) (16:10-16:15)
 名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 ○直江知樹
 名古屋大学医学部附属病院 血液内科 富田章裕
 名古屋大学医学部附属病院 難治感染症部 清井 仁
- 18 骨髄不全における HLA アレルの欠失とクローン性造血 (5分) (16:15-16:20)
 金沢大学医薬保健研究域 細胞移植学・病態検査学 ○中尾真二、片桐孝和、大竹茂樹
 東京大学医学部附属病院 ゲンゲノミクスプロジェクト 松原亜以子、小川誠司
 東京都赤十字血液センター 柏瀬貢一
 JMDP データ管理事務局 森島泰雄

- 19 Idiopathic cytopenia of undetermined significance (ICUS)の実態調査 (5分) (16□20-16□25)
 東京医科大学 内科学第一講座 ○大屋敷一馬、安藤恵子、岩淵多光子
 田中裕子、橋本裕子
 東京医科大学 医学総合研究所 大屋敷純子
 金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 杉森尚美、中尾眞二
- 20 MDS 検体集積事業の継続について (5分) (16□25-16□30)
 獨協医科大学 内科学(血液学)(東日本バンク担当) ○三谷絹子、牧 和宏
 京都大学 血液腫瘍内科(西日本バンク担当) 石川隆之
 東京大学医学部附属病院 がんゲノミクスプロジェクト(ゲノム解析担当)
 小川誠司

骨髄不全症全般

座長 小澤敬也

- 21 鉄過剰症に関する臨床研究：進捗状況 (5分) (16□30-16□35)
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也、○鈴木隆浩
- 22 【連携班：「ヘモクロマトーシスの実態調査と診断基準作成」】
 ヘモクロマトーシスの実態解明と診断基準の作成 (10分) (16□35-16□45)
 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科学 ○高後 裕、生田克哉

溶血性貧血領域

座長 金倉 譲

- 23 研究の進捗状況と今年度の計画について (5分) (16□45-16□50)
 大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉 譲
- 24 PNH 研究(ソリリス、I-PIG、日本 PNH 研究会、PNH FCM ネットワーク)の進捗状況 (10分) (16□50-17:00)
 大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉 譲
 《指定発言1》ソリリスの発売と現状の報告
 昭和大学 小峰光博
 《指定発言2》I-PIG の近況、日本 PNH 研究会の発足、PNH FCM ネットワークの構築
 大阪大学 血液・腫瘍内科 西村純一
- 25 自己免疫性溶血性貧血の研究進捗状況と今年度の計画 (5分) (17:00-17:05)
 自治医科大学 地域医療学センター 梶井英治、○亀崎豊実

骨髄線維症領域

座長 赤司浩一

- 26 研究の進捗状況と今年度の計画について (5分) (17:05-17:10)
 九州大学 病態修復内科学 赤司浩一
- 27 本邦の原発性骨髄線維症の臨床像 (5分) (17:10-17:15)
 九州大学 病態修復内科 赤司浩一、竹中克斗
 国立病院機構 大牟田病院 原田実根
 久留米大学 血液内科 岡村 孝
 宮崎大学 消化器血液内科 幣光太郎、松永卓也、○下田和哉

小児科領域

座長 中畑龍俊

- 28 研究の進捗状況と今年度の計画について (5分) (17:15-17:20)
京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門 中畑龍俊
- 29 【連携班：「先天性赤芽球癆 (Diamond Blackfan 貧血) の効果的診断法の確立に関する研究」】
先天性赤芽球癆 (Diamond Blackfan 貧血) の効果的診断法の確立に関する研究 (10分) (17:20-17:30)
弘前大学 小児科 ○伊藤悦郎、照井君典
名古屋大学 小児科 小島勢二
東邦大学 小児科 小原 明
九州大学 小児科 大賀正一
国立感染症研究所 浜口 功
東京医科歯科大学 小児科 森尾友宏
東京女子医科大学 遺伝子医学 菅野 仁
- 30 【連携班：「Congenital dyserythropoietic anemia (CDA) の効果的診断法の確立に関する研究班」】
CDA (Congenital dyserythropoietic anemia) の病態解明 (10分) (17:30-17:40)
京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門 中畑龍俊
名古屋大学 小児科 小島勢二
東邦大学 小児科 小原 明
滋賀医大 小児科 多賀 崇
聖路加国際病院 小児科 ○真部 淳、神谷尚宏
-

造血幹細胞移植領域

座長 岡本真一郎

- 31 研究の進捗状況と今年度の計画について (10分) (17:40-17:50)
慶應義塾大学医学部 血液内科 岡本真一郎
-

事務連絡

事務局 鈴木隆浩 (5分) (17:50-17:55)

閉会の挨拶

小澤敬也 (5分) (17:55-18:00)

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

特発性造血障害に関する調査研究

(研究代表者 小澤敬也)

および

重点研究

不応性貧血の治療率向上を目指した

分子・免疫病態研究

(研究代表者 小川誠司)

平成 22 年度 第 2 回合同班会議総会

平成 23 年 2 月 4 日(金) 9:00~15:30

アステラス製薬本社 2 階ホール

**International Seminar on
Bone Marrow Failure Syndromes**

平成 23 年 2 月 4 日(金) 16:00~17:40

アステラス製薬本社 2 階ホール

平成 23 年 2 月 3 日(木) 18:00~19:30

平成 22 年度 第 2 回合同班員会議 (アステラス製薬本社 313 会議室)

平成 23 年 2 月 4 日(金) 12:00~13:00

平成 22 年度 第 2 回重点班班員会議 (アステラス製薬本社 301 会議室)

(それぞれ別途御案内の先生方には、御出席をお願い致します。)

事務局

《特発性造血障害に関する調査研究班》

自治医科大学 内科学講座血液学部門

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL: 0285-58-7353 / FAX: 0285-44-5258

URL: <http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan>

E-mail: kozawa@ms2.jichi.ac.jp (小澤敬也)

tasuzuki@jichi.ac.jp (鈴木隆浩)

motokoy@jichi.ac.jp (吉田元子)

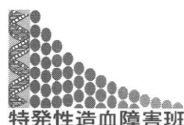
《重点研究：不応性貧血の治療率向上を目指した分子・免疫病態研究》

東京大学医学部附属病院 がんゲノミクスプロジェクト

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL: 03-5800-9045 / FAX: 03-5800-9047

E-mail: sogawa-tky@umin.ac.jp (小川誠司)



特発性造血障害班

御発表に際して

- (1) CD、あるいはUSBメモリによるデータを受付に御提出下さい。ただしMacを御使用の方は、おそれいりますがパソコンを御持参下さい。
- (2) 配布資料は、表紙右肩に□で囲んだ演題番号を記したものを、150部御用意下さい。
- (3) 割り当て時間は発表と討論を含みますので、討論の時間を残すようにコンパクトに御発表下さい。

会場の御案内



アステラス製薬株式会社本社
東京都中央区日本橋本町2-3-11

- ① 東京メトロ三越前駅
A6出口から3～4分（銀座線ホーム寄り）
※数年にわたり閉鎖されていたA6出口が、新しいビルのオープンに伴い、利用再開となりました。
半蔵門線を御利用の方は、上記出口を御利用下さい。
- ② 東京メトロ小伝馬町駅 3番出口から10分
- ③ JR神田駅 東口出口から15分
- ④ JR新日本橋駅 3番出口から10分

※駐車場はございませんので、お車での御来場は御遠慮下さい。

造血障害班ホームページ

当研究班では、皆様への情報の御提供のため、ホームページを開設しております。
どうぞ御利用下さい。

URL	http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan/
ID	zoketsu
Password	jichi

※班会議当日、現地の事務局担当者へ御連絡下さる必要がある場合は、表紙に記載の吉田までe-mailをお送り下さい。

プログラム

- | | | | |
|-------|--|--|---------------------|
| | 開会の挨拶 | 小澤敬也 | (5分) (9:00-9:05) |
| | 厚生労働省 挨拶 | 健康局疾病対策課 | (5分) (9:05-9:10) |
| <hr/> | | | |
| 1 | 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告
自治医科大学 内科学講座血液学部門 | 小澤敬也 | (20分) (9:10-9:30) |
| <hr/> | | | |
| | 再生不良性貧血領域 | 座長 中尾眞二 | |
| 2 | 研究全体の総括 (3年間のまとめ)
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学 | 中尾眞二 | (10分) (9:30-9:40) |
| 3 | 再生不良性貧血に関する疫学研究 (平成20~22年度)
東邦大学医学部 社会医学講座衛生学
昭和大学医学部 公衆衛生学
金沢大学大学院 医学系研究科細胞移植学
埼玉医科大学医学部 公衆衛生学
自治医科大学 内科学講座血液学部門 | ○杉田 稔
島田直樹
中尾眞二
永井正規
小澤敬也 | (5分) (9:40-9:45) |
| 4 | 臨床調査個人票からみた再生不良性貧血の治療状況
昭和大学医学部 公衆衛生学
東邦大学医学部 社会医学講座衛生学
金沢大学大学院 医学系研究科細胞移植学
埼玉医科大学医学部 公衆衛生学
自治医科大学 内科学講座血液学部門 | ○島田直樹
杉田 稔
中尾眞二
永井正規
小澤敬也 | (5分) (9:45-9:50) |
| 5 | 成人再生不良性貧血における免疫病態マーカーの意義を明らかにするための多施設共同
前方視的臨床試験：結果報告
金沢大学大学院 医学系研究科細胞移植学 | 中尾眞二、○山崎宏人 | (10分) (9:50-10:00) |
| 6 | 赤芽球癆：3年間の共同研究のまとめ
秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科
N T T 関東病院 血液内科
金沢大学 細胞移植学
昭和大学藤が丘病院 内科
順天堂大学 血液内科
岩手医科大学 血液・腫瘍内科
旭川医科大学 消化器・血液内科
自治医科大学 血液科 | ○澤田賢一、廣川 誠、藤島直仁
浦部晶夫
中尾眞二
小峰光博
小松則夫
石田陽治
高後 裕
小澤敬也 | (10分) (10:00-10:10) |
| 7 | ABO 不適合同種造血幹細胞移植後赤芽球癆に対する標準的治療の確立を目的とした調査研究：最終報告
秋田大学血液・腎臓・膠原病内科学
京都大学人間健康科学小児科
北海道大学血液内科
N T T 関東病院血液内科
慶応大学血液内科
名古屋大学造血細胞移植情報管理学
岡山大学血液・腫瘍・呼吸器内科
金沢大学細胞移植学
自治医科大学血液内科 | 澤田賢一、○廣川 誠、藤島直仁
足立壮一
今村雅寛
浦部晶夫
岡本真一郎
鈴木律朗
谷本光音
中尾眞二
小澤敬也 | (10分) (10:10-10:20) |

不応性貧血領域

座長 黒川峰夫

- 8 研究全体の総括（3年間のまとめ） (10分) (10:20-10:30)
 東京大学大学院 医学系研究科血液・腫瘍内科学 黒川峰夫
- 9 不応性貧血(骨髄異形成症候群)診療の参照ガイド改訂 (10分) (10:30-10:40)
 東京大学大学院 医学系研究科血液・腫瘍内科学 ○黒川峰夫
 京都大学医学部 血液・腫瘍内科 石川隆之
 長崎大学医学部 原研内科 宮崎泰司
 獨協医科大学医学部 血液内科 三谷絹子
 京都大学 iPS細胞研究所 中畑龍俊
 慶應義塾大学医学部 血液内科 岡本真一郎
 名古屋大学医学部 保健学科 村手 隆
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃
 川崎医科大学医学部 検査診断学 通山 薫
 東京医科大学医学部 第一内科 大屋敷一馬
 名古屋大学医学部 血液・腫瘍内科 直江知樹
 東京大学医学部 がんゲノミクスプロジェクト 小川誠司
 自治医科大学医学部 血液学 鈴木隆浩
 広島大学原医研 血液・腫瘍内科 木村昭郎
 岡山大学医学部 血液・腫瘍・呼吸器内科 谷本光音
- 10 再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究 (10分) (10:40-10:50)
 京都大学医学研究科 血液・腫瘍内科学 高折晃史、○川端 浩
 神戸市立医療センター中央市民病院 免疫血液内科 石川隆之
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃
 川崎医科大学 検査診断学 通山 薫
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也
- 11 International Working Group for Prognosis in MDS の進捗状況 (10分) (10:50-11:00)
 長崎大学 ○宮崎泰司、波多智子
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃
 川崎医科大学 通山 薫
 東京大学 黒川峰夫
 自治医科大学 小澤敬也
- 12 本邦における MDS 患者の生命予後～とくに貧血との関連について (10分) (11:00-11:10)
 川崎医科大学 検査診断学 ○通山 薫
 京都大学 血液腫瘍内科 石川隆之
 自治医科大学 血液科 小澤敬也、鈴木隆浩
- 13 抗がん剤多剤耐性白血病細胞株における DNA 2 本鎖修復関連蛋白の解析 (10分) (11:10-11:20)
 名古屋大学医学部 保健学科 村手 隆

小児科領域

座長 中畑龍俊

- 14 研究全体の総括（3年間のまとめ） (10分) (11:20-11:30)
 京都大学 iPS細胞研究所 中畑龍俊

- 15 日本小児血液学会疾患登録事業を一次調査とする再生不良性貧血など造血障害の疫学データベース構築 (10分) (11:30-11:40)
 東邦大学大森病院 輸血部 ○小原 明
 名古屋大学 小児科 小島勢二
 聖路加国際病院 小児科 真部 淳
 京都大学 小児科 中畑龍俊
- 16 造血不全症における血球テロメア長の測定意義 (10分) (11:40-11:50)
 名古屋大学 小児科 小島勢二、○坂口大俊、高橋義行、濱 麻人
 東邦大学大森病院 輸血部 小原 明
 京都大学 iPS 細胞研究所 中畑龍俊
- 17 先天性骨髄不全症候群の病態解明 (10分) (11:50-12:00)
 京都大学 小児科 中畑龍俊
 弘前大学 小児科 伊藤悦朗
 名古屋大学 小児科 小島勢二
 東北大学 血液免疫科 張替秀郎
 聖路加国際病院 小児科 ○真部 淳



12:00~13:00

lunch time



重点研究「不応性貧血の治療率向上を目指した分子・免疫病態研究」班 座長 小川誠司

- 18 班長報告 (10分) (13:00-13:10)
 東京大学医学部附属病院 がんゲノミクスプロジェクト 小川誠司
- 19 自己免疫性骨髄不全におけるクローン性造血 (10分) (13:10-13:20)
 金沢大学大学院 医学系研究科細胞移植学 ○中尾眞二、片桐孝和、細川晃平
 山崎宏人、高松博幸
- 20 骨髄異形成症候群の原因 microRNA miR-9 の赤芽球分化に果たす役割 (10分) (13:20-13:30)
 獨協医科大学内科学 血液・腫瘍 三谷絹子、○佐々木光
- 21 メチルシトシンヒドロキシル化と MDS におけるその異常 (10分) (13:30-13:40)
 筑波大学大学院 血液病態制御医学分野 千葉 滋
- 22 5-aza-dC による K562 細胞の赤芽球系への分化と次世代シーケンサを用いたエピゲノム解析 (10分) (13:40-13:50)
 広島大学原爆放射線医科学研究所・がん分子病態 稲葉俊哉 ○松井啓隆
- 23 全エクソンシーケンスによる MDS の新規変異遺伝子の同定 (10分) (13:50-14:00)
 東京大学医学部附属病院 がんゲノミクスプロジェクト 小川誠司、○吉田健一、真田 昌

溶血性貧血領域

座長 金倉 譲

- 24 研究全体の総括 (3年間のまとめ) (10分) (14:00-14:10)
 大阪大学血液・腫瘍内科 金倉 譲

- 25 NH 研究（ソリリス関口、I-PIG、日本PNH研究会（JPSG）、フローサイトメトリー・ネットワーク、PNH Registry）の進捗状況 (15分) (14:10-14:25)
 大阪大学血液・腫瘍内科 金倉 譲
 【指定発言1】
 ソリリス関連の進捗状況
 昭和大学 小峰光博
 【指定発言2】
 I-PIGの近況報告
 大阪大学微生物病研究所 木下タロウ
 【指定発言3】
 日本PNH研究会（JPSG）、フローサイトメトリー・ネットワーク、PNH Registryの進捗
 大阪大学血液・腫瘍内科 西村純一

- 26 Coombs 陰性自己免疫性溶血性貧血の免疫病態の検討 (10分) (14:25-14:35)
 自治医科大学地域医療学センター 梶井英治、○豊辻智則、亀崎豊実

骨髄線維症領域

座長 赤司浩一

- 27 研究全体の総括（3年間のまとめ） (10分) (14:35-14:45)
 九州大学 病態修復内科学 赤司浩一
- 28 本邦の原発性骨髄線維症の臨床像 (10分) (14:45-14:55)
 九州大学 病態修復内科学 赤司浩一、竹中克斗
 国立病院機構 大牟田病院 原田実根
 久留米大学 血液内科 岡村 孝
 宮崎大学消化器 血液内科 松永卓也、○下田和哉

造血幹細胞移植領域

座長 岡本真一郎

- 29 研究全体の総括（3年間のまとめ） (5分) (14:55-15:00)
 慶應義塾大学医学部 内科血液研究室 岡本真一郎
- 30 MDSに対する同種造血幹細胞移植の適応に関する検討 (10分) (15:00-15:10)
 慶應義塾大学医学部 内科血液研究室 岡本真一郎

骨髄不全症全般

座長 小澤敬也

- 31 鉄過剰症に関する臨床研究：開始後2年間の中間報告 (10分) (15:10-15:20)
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也、○鈴木隆浩
 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科学 高後 裕、生田克哉

事務連絡

事務局 鈴木隆浩 (5分) (15:20-15:25)

閉会の挨拶

小澤敬也 (5分) (15:25-15:30)



15:30~16:00

coffee break



この時間帯で、国際セミナー演者ならびに両班の研究分担者、先輩の先生方に会場前方にお集まりいただき、記念撮影を行います。

National Research Group on Idiopathic Bone Marrow Failure Syndromes
International Seminar on Bone Marrow Failure Syndromes

Date: Friday February 4, 2011 (16:00 ~ 17:40)

Venue: Conference Hall of Astellas Pharma Inc., Tokyo

Lewis R. Silverman

Mount Sinai School of Medicine

Srdan Verstovsek

The University of Texas MD Anderson Cancer Center

国際セミナーの開催にあたって

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特発性造血障害に関する調査研究」班は、再生不良性貧血・溶血性貧血・不応性貧血（骨髄異形成症候群 MDS）・骨髄線維症を対象とした全国規模の調査研究を長年に亘って実施し、大きな研究成果を上げてきました。平成 17 年度から私が研究代表者を務めさせていただきましたが、平成 22 年度で 2 期 6 年間の任期が終了するにあたり、一つの区切りとして、国際セミナーを企画致しました。平成 23 年 2 月 4 日（金）夕刻、MDS 重点研究班との合同班会議総会に引き続き、骨髄不全症候群に関する小規模の国際セミナー（International Seminar on Bone Marrow Failure Syndromes）を開催します。具体的な内容としては、最近我が国でも新規治療薬が登場してきている MDS と、これから新規治療薬の臨床試験が我が国でも始まると予想される骨髄線維症を取り上げることに致しました。即ち、MDS と骨髄線維症に焦点を当て、それぞれに対する新規治療法の臨床開発の世界的第一人者である Lewis R. Silverman 博士（Mount Sinai School of Medicine）と Srdan Verstovsek 博士（The University of Texas MD Anderson Cancer Center）をお招きし、御講演いただきます（プログラム別添）。この国際セミナーを通じて、難治性の骨髄不全症候群に対する新しい治療法開発に関心を持つ血液内科医／小児科医の国際交流が進むことを期待しております。多くの皆様の御参加と活発な御議論をお願い申し上げます。

平成 23 年 2 月 吉日

「特発性造血障害に関する調査研究」班
研究代表者 小澤 敬也